資料5

第5回 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの 構築に係る検討会

# 地域包括ケアシステム と <u>はたらく</u> 生業・仕事・就労・就業...

≒参加(participation):ICF

NPO法人ハートinハートなんぐん市場 長野敏宏

## 本日の話題提供

- ・ 実践の概略
  - -地域包括ケア全体と「はたらくこと」

私たちはどのような「はたらきたい」と出 会ってきたか。

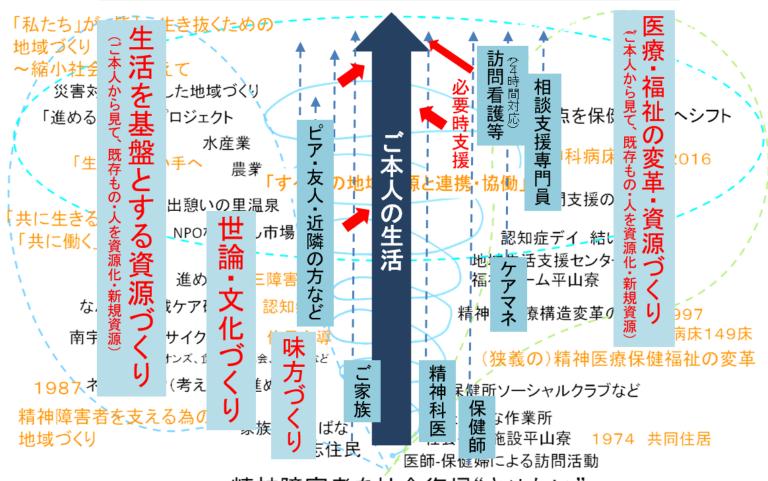
・地域包括ケアシステムと、はたらく/生業・ 仕事・就労・就業…をどう考えているか?

### すべてのひとが、誇りを失わず、生涯を全うできる社会へ

医療・福祉の枠組みで支える」からの脱却へ 「私たち」が、皆と、生き抜くための地域づくり ~縮小社会を見据えて 「統合」 次のあるべき精神科医療の模索 災害対策を切り口とした地域づくり 重点を保健・予防へシフト 「進める会」未来プロジェクト 水産業 精神科病床閉鎖 2016 「生業」の担い手へ 必要な入院加療は連携で 「すべての地域資源と連携・協働」 訪問支援の充実 山出憩いの里温泉 共に生きる」 2006 NPOなんぐん市場 認知症デイー結構 | 共に働く| 主軸を非日常から日常へ 地域生活支援センターいろり 進める会 三障害へ 福祉ホーム平山寮 なんぐん地域ケア研究会 認知症 \ 精神科医療構造変革の開始 1997 病床149床 南宇和福祉リサイクル活動 住民主導 ライオンズ、食品衛生協会、婦人会など (狭義の)精神医療保健福祉の変革 198 スネットワーク(考える会・進める会) 保健所ソーシャルクラブなど 精神障害者を支える為の たちばな作業所 家族会たちばな 地域づくり 社会復帰施設平山寮 1974 共同住居 有志住民 医師-保健婦による訪問活動 精神障害者を社会復帰"させたい" 1962 精神病院

### 「はたらく」支援は地域包括ケアシステムの大切な機能

#### すべてのひとが、誇りを失わず、生涯を全うできる社会へ



精神障害者を社会復帰"させたい" 1962 精神病院

### 原点 社会復帰施設「平山寮」昭和49年~

取り組んだ事業(昭和52年年間総収入241万円) 養豚、釣りいかだ・釣り餌、牡蠣養殖、民宿(海水浴)、畑(柑橘、芋類、米、麦)、闘牛牛の飼育委託、アルバイト(柑橘農家、ハマチ養殖など)、一般就職や起業をした方も

病とともに、帰るべき家庭を、生きるべき場を、あるいは又、続くべき人生を見失った人達がいる。それらの人達が、共同生活の場を通して、自分達の力で自活の道を開き、よりたくましくなり、うまくこの現実社会を乗り越えてゆけるようにとの願いをこめて、この試みは始められた。社会復帰施設平山寮発足目的(渡部嵐)

#### 精神保健医療福祉の視点より

## 愛媛県愛南町の住民ネットワーク

共通の課題意識を共有しつつ、ネットワーク同士を意図的に、 ゆるやかに重ねてきた。障害者支援と認知症・高齢者ケアなど…

様々な(街づくり)イベントの開催・参加の継続 ボランティアグループ等との連携・協働 自立支援協議会や介護保険関係、 歯科医師会主催など、法内外の ネットワーク活動が多彩に展開。 断酒会、認知症の人と家族の会等

様々なボランティア・地域貢献の場

なんぐん地域ケア研究会(医師会主催の住民ネットワーク)

ボランティア連絡会(ネットワークで拠点運営などの具体的活動を展開)

ありんこくらぶ(障がい児と親と支援者の会)

当事者クラブあじさい(緩やかなピアネットワーク、定例会など20年間継続)

「進める会」福祉リサイクル活動(共にまちづくり、楽しく具体的に)

南宇和精神障害者の社会参加を進める会(会員1200名の住民ネットワーク)

→ 南宇和障害者の社会参加を進める会

南宇和精神衛生を考える会 → 南宇和心の健康を考える会(関係機関は事業として、フォーマルネットワーク)

精神障害者家族会「たちばな」

S62年

NPO法人たちばな

業、災害対策など)

様々な分野の当事者同士としてのネットワークへ(医療福祉、産

"ふつう"の住民活動へ参画

三障害・児

高齢者介護等

地域振興や生業を切り口として地域のすべての分野とのネットワーク

社会復帰施設平山寮

地域外の支援者・仲間

-部の住民支援者

S55年

ライオンズクラブ等の住民

ピア

) 细世况决证

S37年

S49年

御荘病院

専門職

関係機関

H元年

H10年

H20年

H30年

#### 地域の経済・雇用状況の急速な悪化から、 この15年は起業・(あらゆる人の)雇用創出に主眼をおいてきた

'生業"をひとつひとつ、守り・創り、それが地域の風景に…皆の生きる場に 地域にマッチしたものを新たに創り出す事業 公益財団法人 正光会 多機能事業所 南生"なぎ" 農業 (就労A) 国産アボカド サツキマス 食品加工 養殖 シイタケ ▋若手水産業者 干し芋(ひがしやま) ■愛媛大学 弁当(配達・見守り) 愛南漁協 国産メンマ 御荘紅茶 愛南町 等と、 (準備中) 川魚養殖 温泉施設 原木シイタケ(生・干) 宿泊 (アマゴ) 米販売 産直市 キャンプ場 水産業 ペットツーリズム バイキングレストラン 地域に伝わるサツマイモ 個人直販 など(準備中) 水稲 弁当事業 ブロッコリー(主にJA出荷) 売店 海老芋、野菜など小ロット多品種 「農地を守る、風景を守る」 販売 ⇒地産地消(産直市などの販路) 山出憩いの里温泉 柑橘 (愛南町施設の指定管理) 収穫等作業請負 幕清掃 ポンカン 河内晩柑 文旦 空家管理: 甘夏 温州 甘平 せとか はるか等 観光業 商業 飲食業 (一般事業所) 地域にあるものを守るための事業

NPOなんぐん市場

# NPO法人 ハートinハートなんぐん市場 設立趣意 (H18.4)

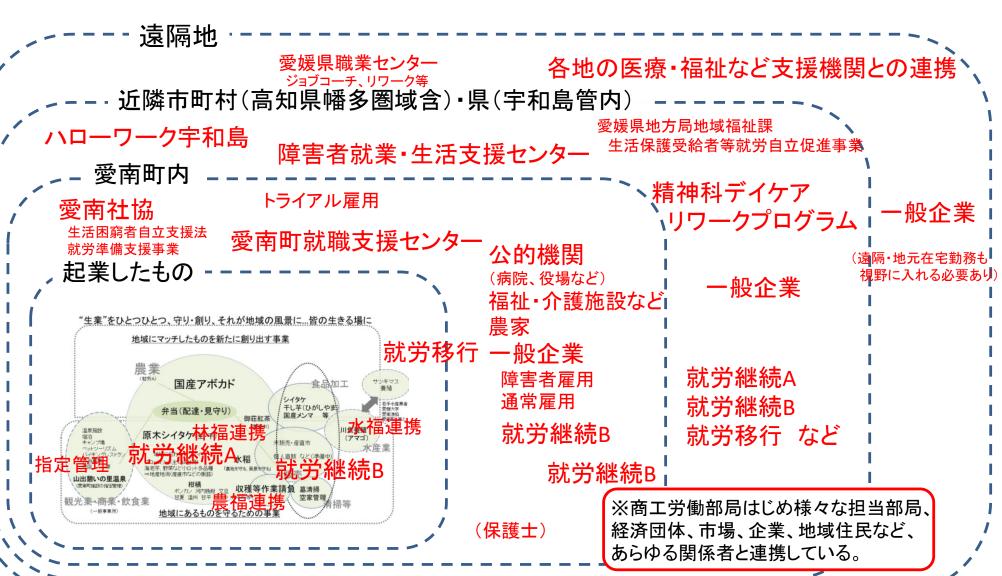
様々な立場の住民が、共に参画し、
 地域振興・環境保全・就労支援活動を通じて
 地域貢献を行いたい。

・地域活性化につながる産業を興したい。

私たちの街が、いきいきとあり続けるために。

#### ~地域包括ケアシステムのエリアを考える上でも重要!~

## (施策等の視点による)就労・就業支援の概略



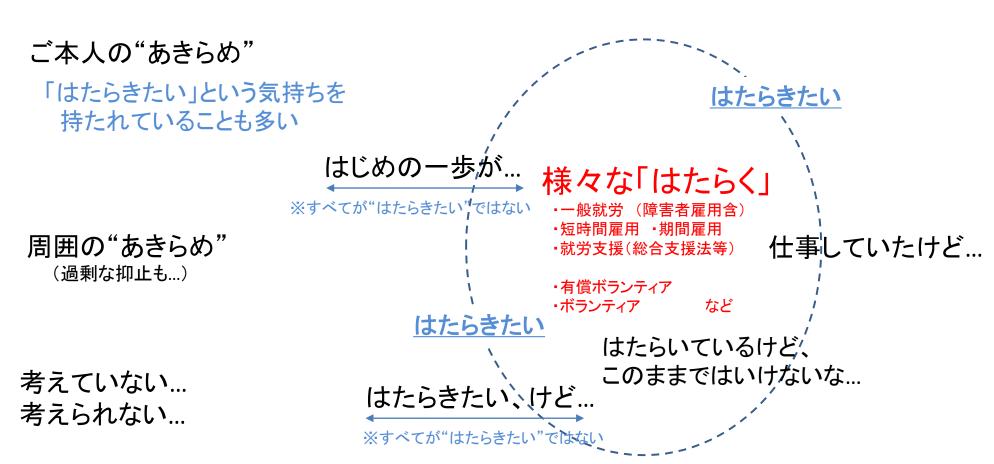
## 本日の話題提供

- 実践の概略
  - -地域包括ケア全体と「はたらくこと」

私たちはどのような「はたらきたい」と出 会ってきたか。

・地域包括ケアシステムと、はたらく/生業・ 仕事・就労・就業…をどう考えているか?

# 「はたらきたい」の前に...



はたらきたくない...

※「障害受容と開示」をスタートラインに置くと 「はたらきたい」から遠ざかることも (就労・就業支援のパターナリズムに対する危機感)

## どのような「はたらきたい」と出会ってきたか

それぞれはボランティア 活動費を売り上げで確保

> 南宇和リサイクル活動 "夢の常設店"目指して

○障害者としてではなく、ボラン ティアとして

→「"共に"町の課題の一助に」

「障害の有無にかかわらず」

雇用(就労継続A~一般)

NPOなんぐん市場

地域住民協働で起業(一般事業+就労A)

障害の有無、年齢にかかわらず、雇用契約を原則に ソーシャルファーム、ワークシェア、中間的就労等の 考え方も内包している。

指定管理制度の活用(自治体と密に連携)

〇"ふつうに"仕事がしたい

○フルタイム常勤のみでなく、短時間、頻繁な中期・

長期休暇などの、多様な働き方

○一般就労へのトライも頻繁に

H18 H26 R元

S40 S50

S62 H元

H8 H12

社会復帰施設平山寮 ○精神障害者の自立へ

工賃

小規模作業所

ワークシェア

(当時だと"山分け"?)

支援ネットワークの拡充

多くの住民支援者とご 本人の出会い

○「はたらける」かも

ボランティア 支援される側から 共に活動する仲間へ リサイクルショップ

有償ボランティアに近いしくみ ○「はたらく」可能性に飛躍的に 拡大(ご本人・雇用の場双方)

有償ボランティア

多機能事業所南生(なぎ)

改めて就労継続B型/就労移行

支援の重要性を認識

今一度、工賃も

- ご本人の「はたらきたい」は、様々な方向へ、刻々と変化する。地域の状況も変化する。
- 障害者の自立を目的とした就労 → "だれかのために"緩やかな役割分担(ボランティア) → 少しでも収入を → しっかりとした雇用条件で → (ステップアップしてきたつもりだったが) 多様な選択肢がすべて重要であることに気づかされている。
- 多様な方が、地域の風景の中ではたらいていると、地域の雇用や包摂に対する文化が刻々と 変化していく(成熟していく)。
- 「はたらくこと」は、(狭義の)医療・福祉のアプローチでは難しい(ご本人の)豊かな生活につな がる新たなつながりやコラボレーションを次々に生み出していく。

## 本日の話題提供

- ・ 実践の概略
  - -地域包括ケア全体と「はたらくこと」

私たちはどのような「はたらきたい」と出 会ってきたか。

・地域包括ケアシステムと、はたらく/生業・ 仕事・就労・就業…をどう考えているか?

#### ~施策に対する私見~

### 地域包括ケアシステムとはたらく

- 地域包括ケアシステムの中で、また、地域共生社会をめざすうえで、「はたらくこと」 は極めて重要。
  - それぞれの地域の実情にあった、多様な方の、多様なはたらき方を、生活根底から支えられなければならない。また、精神障害について十分な配慮は不可欠であるが、それのみを特化し他と分離することになってはいけない。
  - 有償、工賃、給与が発生しない「はたらく」も、それらと連続性の中でとらえておく必要がある。ステップアップの入り口・きっかけとしても、また、それそのものも大切。
  - 「はたらくこと」と生活・医療・福祉などの全体を把握し、つながり、ご本人の支援につなげていく伴走者、ケアマネジメントが極めて重要。ひとつの制度の枠内ではご本人にとって最適な「はたらく」にはつながらないことが多い。地域保健との連携が重要、地域保健がその機能を持つという選択肢も十分考えられる。
- この20年、福祉施策・労働施策は飛躍的に充実した。地方でも、ご本人が変化を実 感できている。ただし、地域格差は著しい。
  - 方向性がやや画一的になりつつある懸念
  - メニューの拡充、機能分化・高度化などから新たな"制度の狭間"も見えてきている。支援する側・される側という関係性の限界も。
- 地域がすべての社会・経済活動の基盤として機能し、持続することが前提条件。
  地域づくり(多様な資源づくり、ひとづくりなど)に、"私たち"が、取り組まなければならない。

### 地域共生社会とは

◆制度・分野ごとの『**縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて**、地域住民や地域の多様な主 体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住 民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

#### 支え・支えられる関係の循環 ~誰もが役割と生きがいを持つ社会の醸成~

- ◇居場所づくり
- ◇社会とのつながり
- ◇多様性を尊重し包摂 する地域文化















- ◇生きがいづくり
- ◇安心感ある暮らし
- ◇健康づくり、介護予防
- ◇ワークライフバランス

#### すべての人の生活の基盤としての地域

- ◇社会経済の担い手輩出
- ◇地域資源の有効活用、 雇用創出等による経済 価値の創出

### 地域における人と資源の循環 〜地域社会の持続的発展の実現〜

- ◇就労や社会参加の場 や機会の提供
- ◇多様な主体による、 暮らしへの支援への参画

すべての社会・経済活動の基盤としての地域











交诵

## ソーシャルファームについて

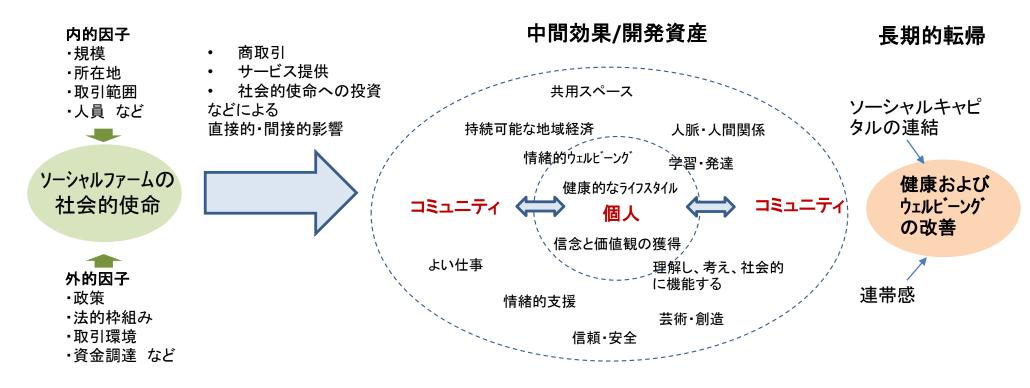
・ 愛南町や、日本の地方の話ではなく、グローバルスタンダードとして学ぶべきこと

## ソーシャルファームとは

### (Social Firms Europe CEFECによる定義)

- ・ 障害のある人々または労働市場において不利な立場にある人々を雇用するために作られたビジネス
- 社会的使命を追求するために、市場志向の商品の製造やサービスの提供を行う(収益の50%以上は商取引により得られること)
- ・ 従業員の相当数(少なくとも30%)が、障害のある人々また は労働市場において不利な立場にある人々である
- すべての労働者には、その生産能力にかかわらず、その 仕事に適した市場価格の賃金や給料が支払われる
- 仕事の機会は、不利な立場にある従業員とそうでない従業員の間で平等でなければならなず、すべての従業員が同じ雇用権と義務を持つ

### ソーシャルファームに関するエビデンス



- ソーシャルファーム/社会的企業は、個人にとっても、より広い社会にとっても、様々なレベルで利点があり、健康・ウェル ビーングに様々な形で好影響を与える
- ソーシャルファーム/社会的企業は、スキルや雇用可能性を向上させ、自立と自尊心の向上につながり得る
- 英国における研究では、ソーシャルファームにおける精神障害者の雇用はまだ少ないものの、50%以上が統合失調症や双極性障害などを持つ従業員を雇用しており、3分の2以上が労働者の採用や労働者支援のために、地元のメンタルヘルスサービスと連携している
- e Roy MJ, et al: The potential of social enterprise to enhance health and well-being: a model and systematic review. Soc Sci Med, 2014
  - Gilbert E, et al: Social Firms as a means of vocational recovery for people with mental illness: a UK survey. BMC Health Serv Res, 2013.

## これから

- 急激な縮小社会時代への変化を見据えることが不可欠。 地域共生・包摂社会へ向かうチャンスでもあるが、ひと不 足や財源枯渇のピンチも容易に想像できる。
  - 総論では「地域共生社会」として整理されはじめたが、介護・障害者福祉等の各施策においては縦割り、過去の制度や通知による現状にそぐわない規制、新たな制度の悪用対策等による規制、機能分化のための制限等でがんじがらめになりつつある。ご本人からは「わかりにくく、使いにくい」状況、また全体でも財源枯渇を生み出す要因になっていると言わざるを得ない。
    - 歴史・過去に学び・尊敬しつつも、過去にすがらず、未来を創りだしていかなければいけない状況になりはじめていると考えている。
  - 地域包括ケアシステムの中で「はたらくこと」を熟考し、これから の100年に沿う、地域の実情に合わせた、持続可能な施策へ。
    - 「支援する側・される側」「雇用する側・される側」という一方通行の関係 性を打破する最適解がみつかりやすいと感じている。